

都市再生整備計画

はすだしちゆうしんしがいちちく
蓮田市中心市街地地区(第5回変更)

さいたまけん はすだし
埼玉県 蓮田市

令和5年1月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	はすだし 蓮田市	地区名	はすだし ちゅうしんしがいち ちく 蓮田市中心市街地地区	面積	205.9	ha
計画期間	令和 元 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	令和 元 年度 ~ 令和 5 年度					

蓮田市中心市街地地区(第5回変更)

目標								
大目標 まち・ひと・みどりが交流するところ豊かなまちづくり								
小目標① アクセス道路の高質化による中心市街地の利便性向上と回遊性向上								
小目標② みどりの交流拠点としての機能強化による中心市街地のにぎわい促進								

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況								
<ul style="list-style-type: none"> 本市は、都心から40km圏内に位置し、首都東京のベットタウンとして、昭和30年代後半から高度経済成長を続けてきた。 本地区は公共交通アクセスポイントの中心拠点として形成されてきたが、大型店舗の郊外立地などにより、既存商店街のスポンジ化や店舗の駅前交通広場周辺への集中化が進行している。 これまで、平成24年12月には蓮田駅西口エスカレーターを設置し、駅東西口のバリアフリー化が完了。まちなかの歩ける範囲の区域の街路・公園等の既存ストックの修復・利活用に努め、高齢者や障がい者、妊婦など歩行弱者にやさしいまちづくりも進めているところである。 本市においても少子高齢化が進行し、平成10年をピークに緩やかに人口が減少しており、近年の継続的な人口減少や年齢構成のアンバランスが問題になっている。長引く経済活力低下や地域コミュニティの衰退などが懸念される中、持続可能な集約型都市づくりや中心商店街の活性化など賑わいや交流のあるまちづくりが課題となっている。 また近年では、都市再生整備計画地方都市リノベーション事業により、将来に渡って持続可能な子育て支援施設を3つ(蓮田みぬま保育園、中央保育園、東保育園)を整備し、女性が安心して就労や育児、買い物等ができるまちづくりを図ってきた。 蓮田都市計画事業蓮田駅西口第一種市街地再開発事業区域においては、駅西口再開発ビルの建設計画が具体的に始動し、さらなる蓮田駅西口の商業の活性化や定住人口の増加、賑わいの創出に市民の期待が寄せられている。 								

課題								
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や少子高齢化による街なかの閉塞感を、商店街の活性化や道路美装化等により賑わいあふれる商業のまちを創出する必要がある。 街なか拠点エリアのみどりの空間や公園、公共施設等を繋ぎ合わせる、街なか拠点間の回遊性が十分でない。 大学の通学路にもなっている商店街のさらなる活性化を図るため、地域産業を担う地元大学と連携してイベントを行うことにより、地域活性化と賑わいの創出を図る。 中心市街地の交通渋滞の緩和、「歩いて暮らせるまちづくり」を推進するため、鉄道駅に近接して利用者用駐車場を設置し、パークアンドライドを進める必要がある。 								

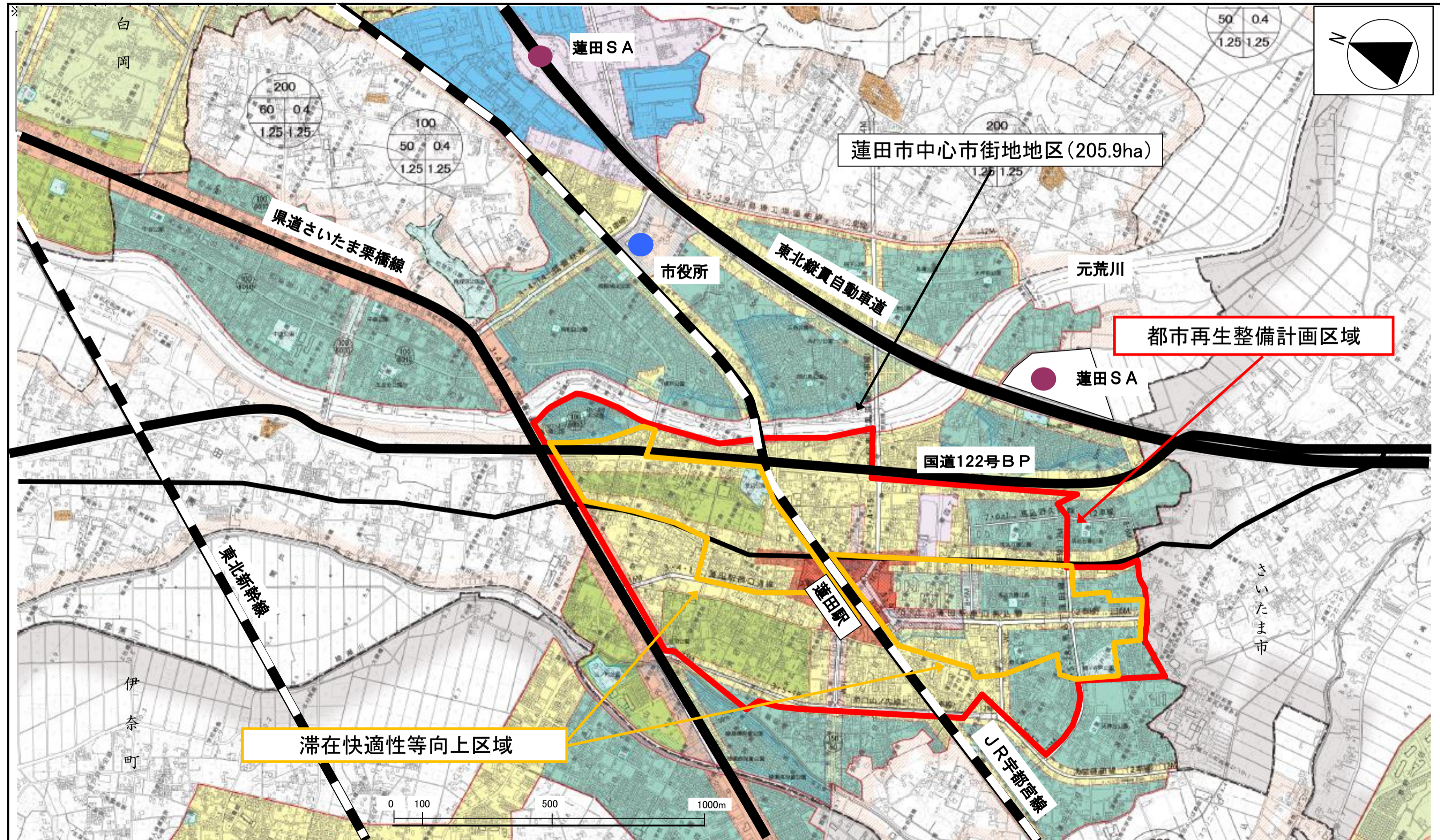
将来ビジョン(中長期)								
【蓮田市第5次総合振興計画】								
<ul style="list-style-type: none"> 蓮田駅周辺を中心商業地ゾーンに位置づけ、駅利用の利便性を向上させながら土地の有効利用と都市機能の集約を図り、賑わいを創出する。 地域の商店や事業所が発展していくために、地域に密着したイベントや販売促進に結びつく各種事業など産業の連携を支援し、商業・工業・サービス業の振興を図る。 地域に密着したイベント等を関係団体と協働で行うことで、蓮田駅周辺の賑わいを創出し、中心市街地の活性化を推進する。 地域一体となって四季かおる花と緑の豊かな自然環境を保全するとともに、潤いのある水辺環境の整備を推進する。 市内交通の円滑化を図るため、幹線道路の整備を推進するとともに、広域的な交通利便性を高めるための道路交通体系を構築する。また、排水路の改修や橋りょうの修繕を実施する。 								
【蓮田市都市計画マスタープラン】								
<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点を中心商業地ゾーンに位置づけ、駅利用の利便性を向上させながら都市機能を集積させ、にぎわいのある中心商業地の形成や都市型住宅を誘導するとともに、市街地再開発事業や街路事業、地区計画などにより、駅前にふさわしい土地利用を誘導する。 地域幹線道路整備等に合わせ、歩行者の利用を優先する道路を確保し、河川等における緑道や既存道路における歩行者空間とのネットワーク化を通じて、歩行者系道路ネットワークの形成を目指す。 道路や水路等の整備に合わせ、道路や水路空間の一部を活用したポケットパーク等を積極的に整備し、潤いと親しみの感じられる緑地空間の確保に努める。 								
【蓮田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略】								
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し、蓮田市マスコットキャラクター「はすびい」を使った地元商品の販売を推進するほか、はすびいとはすだ広報大使「にゃんたぶう」が本市をPRすることで、流入人口・定住人口の増加につなげる。 大学等において、地域とのつながりを深め、地域産業を担う人材育成など地域の課題の解決に貢献する取組を促進するため、大学等と連携して行う事業を検討する。 								

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅周辺の交流拠点・歩行系道路に対する満足度	%	駅周辺の交流拠点・歩行系道路の整備に関して不満を感じていない人の割合(満足度)※駅利用者アンケートによる	みどりの交流拠点や歩行系道路の整備をすることにより、駅利用者の不満を解消し、満足度が向上する。	43.4	H30	55.4	R5
商店街通行量	人	のくぼ通り周辺商店街の歩行者通行量	のくぼ通り周辺商店街・人間総合科学大学・市の3者協働によるイベント開催等により、商店街の賑わいの促進を図る。	1,379	H30	1,441	R5

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【道路の美装化等により中心市街地の回遊性を向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街なか拠点間の回遊性の向上を図る。 ・歩行者や自転車が安全で円滑に交通できる道路環境の改善を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設：市道4号線歩道高質化事業 ・高質空間形成施設：市道51号線歩道バリアフリー化事業 ・高質空間形成施設：市道53号線歩道バリアフリー化事業 ・高質空間形成施設：歩行者・自転車道路整備事業 ・高質空間形成施設：街路灯整備事業 ・高質空間形成施設：蓮田駅東口トイレ整備事業 ・高質空間形成施設：堂山公園トイレ整備事業 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓮田駅西口通線整備事業 ・前口山ノ内線整備事業
<p>【街なかにみどりの交流拠点を整備し、賑わい促進を図る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に緑地や駐車場を整備することにより、街なか交流人口の増進や利便性の向上を図る。 ・産・学・官連携により地域との連携を深めるとともに、のくぼ通り周辺商店街の活性化やイベント開催による交流人口の増加を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設：上町ふれあいの森整備事業 ・地域生活基盤施設：緑地整備事業 ・地域生活基盤施設：駐車場整備事業 <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動推進事業：産・学・官連携によるのくぼ通り周辺商店街活性化事業 ・事業活用調査：事業効果調査 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓮田駅西口第一種市街地再開発事業
<p>その他</p>	

蓮田市中心市街地地区(埼玉県蓮田市)	面積 205.9 ha	区域 本町、末広1・2丁目、見沼町、上1・2丁目、東1・2・5・6丁目、関山3・4丁目、蓮田1・2丁目、馬込1・2・3・4丁目の全部と東3・4丁目、関山1・2丁目の各一部
--------------------	----------------	--



蓮田市中心市街地地区(埼玉県蓮田市)整備方針概要図(ウォークアブル推進事業)

目標	大目標 まち・ひと・みどりが交流するところ豊かなまちづくり	代表的な指標	駅周辺の交流拠点・道路に対する満足度(%)	43.4% (H30年度) → 55.4% (R5年度)
	①アクセス道路の高質化による中心市街地の利便性向上と回遊性向上 ②交流拠点としての機能強化による中心市街地のにぎわい促進		商店街通行量(人)	1,379人 (H30年度) → 1,441人 (R5年度)

